

中間評価結果、公表される

探採から2年  
中間評価を  
受けるまで

二松学舎大学21世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」は、平成十六年七月、文部科学省に採択された。分野は「革新的学術分野」である。当初は漢学漢文文献すべてを対象とし、包括的な漢学文化研究を目的とする計画であったが、採択にあたっての留意事項として日本漢文学に限定することをお願いされた。これに基づいて、本プログラムの事業内容を次の四本の柱にまとめ、活動を開始した。

①日本漢文文献の所在調査とそのデータベース化  
②研究者交流のネットワークづくり  
③若手研究者と書誌的調査の専門家の養成  
④漢文教育の研究と振興

これらの事業を推進するために、本プログラムでは事業担当者として協力者を、九つの研究班（総括班、上古・中古日本漢文、中世日本漢文、近世・近代日本漢文、朝鮮漢学（日韓文化交流）、漢文教育、日本漢字音・辞書・字書（字書・訓読・語法）、日中文化交流、書誌学・目録データベース）を、二年前（平成十八年五月）以降に募集を行った。このうち、内は2年目以降に募集された班名）に分けて、それぞれの分野での研究調査ならびに資料収集等を行ってきた。これらの班活動のほか、COE各員研究員および国内外の研究者による特別講義、公開講演会、講習会も積極的に開催した。その成果としての全十

刊行成果に  
高評価

七種の刊行物（論文集・研究書・資料集・目録・教科書・報告書、詳細は下表参照）、さらにデータベースへの日本漢文関係資料情報の蓄積やその公開、国際シンポジウムや海外研究者の招聘による講演会、あるいは国内学会との連携や公開講座・技能講習会の開催などの実績を携えて、中間ヒアリングを迎えた。

ヒアリングは平成十八年五月十二日（金）、午前十一時より三十分、日本学術振興会一番町事務室五階会議室にて実施された。当日は、拠点リーダー高山節也教授、白藤禮幸教授、佐藤進教授、町泉寿郎専任講師の四名が参加。質問の内容はおおむね、漢文学の国際化の意味、データベース作成をどう研究に生かしていくのか、漢文化の社会へのアピール等に集中した。概して刊行成果に対する評価が高かったのに対して、特に国際化の目的や方法に関連しては厳しい質問が複数出された。その後現地調査等補助調査の要請もなく、九月二十七日（水）に中間評価が公示された。

今後の  
課題として

また特記事項としては、国内外への強力な発信が要請され、参考意見として、国際的共同研究の実施や、英文雑誌の発刊、一般の漢文教育のための市民講座の開設等が求められた。これらの要請や指摘は、いずれも本学COEプログラムの問題点ともいえる点であり、早急に改善計画をまとめて実行に移すとともに、直ちにポストCOEをも見据えた長期的な計画作成にとりかかる必要はある。

また特記事項として、国内外への強力な発信が要請され、参考意見として、国際的共同研究の実施や、英文雑誌の発刊、一般の漢文教育のための市民講座の開設等が求められた。これらの要請や指摘は、いずれも本学COEプログラムの問題点ともいえる点であり、早急に改善計画をまとめて実行に移すとともに、直ちにポストCOEをも見据えた長期的な計画作成にとりかかる必要はある。

海外への人材派遣や海外からの研究者の受け入れ、あるいは海外における若手研究者の養成事業の推進など、現在計画中の活動をさらに拡大した海外連携、拠点語学会や和漢比較文学会などの国文系の学会や研究者とのより緊密な研究協力、データベースのインデックスやキーワードの英語化の推進等々事業の枠を広げると同時に、内容の一層の充実を図っていかねばならないと考



第39号

発行  
二松學舎  
学校法人  
東京都千代田区三番町6-16  
03(3261)7407  
http://www.nishogakusha-u.ac.jp



的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される」というもので、これはランクとしては、AとEの「B」に相当する。さらにコメントとして、「日本漢文学を日本学中に位置付け、これを日本文化研究の基礎に据えようとする」ということや、短期間になした成果については高く評価する。しかし、世界的拠点としての内容の不明瞭さの解決や、データベースの国際化のより一層の推進、内外の人的コネクションの拡大や学内外の人材の取り込みなどが必要である（要約）との意見が付された。

21世紀COEプログラム刊行物一覧

1. 論文集 日本漢文学研究  
三島中洲研究
2. 研究書 本邦における支那学の発達  
漢文文法と訓読処理
3. 資料集 藤原通憲資料集  
日本漢文資料 楽書篇 雅楽資料集二種  
" 声明資料集
4. 目録 江戸漢学書目  
江戸明治漢詩文書目
5. 教科書 二松漢文 基礎漢文—漢詩編—  
" " —思想編—  
二松漢文 日本漢詩  
" 日本漢文
6. 報告書 国際シンポジウム報告二種  
公開講演会報告
7. ニュースレター 雙松週刊(第1~6号)

えしている。なお、今回の評価においては、革新的分野全二十八拠点のうち、Aランク十、Bランク十七、Cランク二であった。また本プログラムは特色ある拠点六種の二に挙げられている。